

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月5日(金)

会場:河内コミュニティセンター

参加者数:48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次市子どもの未来応援宣言について、高等学校以降、「すべての子どもの進路実現をめざす」「高等教育を受ける機会の提供」「地域への愛着を深め、地域に貢献する人材の育成」とあるが、例えば具体的にどのようなこと考えて、実行されようとしているのか。特に「地域への愛着を深め、地域に貢献する人材の育成」について聞きたい。</p>	<p>河内地域には河内小学校があり、三次中学校区で一緒に勉強している。ここで学んでいく子どもたちは、小学校6年間、中学校3年間の計9年間を過ごす。また、地元的高等学校へ進学した子どもたちは、さらに3年を加えた12年間の生活をしていく。現在、市内には3つの高等学校があるが、それぞれの置かれた地域での課題解決など、三次について勉強してくれている。河内では、このたびの「わくわく体験活動」で、地域の皆さんが民泊を受けて下さり、この地域に根付いた勉強をさせて頂いた。中学校に行っても、合同で清掃活動を行う等、地域を知る機会を頂いている。高等学校では、三次高等学校は、将来この三次をどのようによければ良いかを提案してくれたり、三次青陵高等学校では、日本妖怪博物館のマスコットとなるような物の怪をデザインしてくれている。また、日彰館高等学校においては、地域の特色を出そうと「顔出しパネル」を作って、この地域を盛り上げてくれている。この顔出しパネルはギネスブックにも載っている。このように、三次の実態をみながら、育てている高校生であり、習ったことを将来地域に還元していこうと言う子どもたちの声も聞かせてもらっている。「三次市子ども未来応援宣言」は、高等学校を卒業した後も、三次で育てくれた子どもたちが、この三次を気にかけてくれたり、将来的に帰ってきて地域をしっかり支えてくれる人材に育てられることを期待した中身となっている。</p>	
<p>少子高齢化を考えても、若い人たちが三次に帰ってきて就職してくれることが最終目標でないと、課題は解決できないと思う。市としては、10年後や5年後などの人口構造に対して、先を見据えてどのように考えているのか。今年高校を卒業する子どもたちが、どのくらい三次に定着しているのかということ市として調査しているのか分からないが、そのようなことを積み重ねて、地域へ子どもを残していくことをしていくべきである。高等教育をすればするほど、どちらかというと、三次から出ていってしまうという結果になるのではないかと思う。</p>	<p>若い方に三次を選んで、住んでもらうということを考える中で、教育が一番大切であると考えている。教育は、他の都市部と比較しても、引け目のない基礎学力の定着が大事である。もう一つは、地域の色々な素材を体験させていくことが大切である。振り返ってみると、私どもの世代では、子どもたちに農業体験をあまりさせずに、農業を楽しむことをさせず、日本が高度経済社会に突入したように感じる。その結果として、農業を選ぶということの大変さが先行し、農業の本当の良さを身をもって体験していないが故の状況ができてきている。それを改善するために、三次市では、「わくわく体験活動」だけではなく、総合学習の中でも取り組み、それを支援していく予算措置を、他の自治体より重点的に講じていきたい。基礎学力の定着とともに、ふるさとへの愛着やふるさとの良さ、地域の良さを体験させていくように進めていきたい。また、若い人に残っていただくため、市内の高校2年生を対象に、三次の企業の皆さんにご協力いただいて、午前中はプレゼンをしてもらい、午後は企業見学をするといった取組を、ここ3年程継続している。このような取組によって、子どもたちが選択して、残ってくれているということもあると考える。今年度は、4月から9月の半年間で、116人の転入増となっている。また、Uターン・Iターンの支援策を講じているが、当初予算3千万円としていたが、9月に2千万円を計上し、5千万円となった。この状況からも、三次を選んでくれる状況が少しづつではあるが、芽生えてきたと言えるのではないかと思う。単品勝負はしてはいけない。総合的な中で若い人にも住んで良かったと感じてもらえるまちにしていかなければならない。県立中高一貫教育校も、将来的に大きなインパクトを与えるのではないかと考えている。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月5日(金)

会場:河内コミュニティセンター

参加者数:48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次まるごと博物館事業は、中学校区として大変期待している事業である。今、三次町の衰退が叫ばれている中で、太才町周辺には子どもたちの姿が見えないという声をよく聞く。そんな中で、この三次まるごと博物館事業が是非とも大きな事業となって三次に新しいにぎわいができることを期待している。ただ、アピール度が伝わってこないと感じる。先日、笑福亭鶴瓶さんがテレビの番組で三次へ来られたが、もっともっと市長が先頭に立って、テレビに出てアピールをしてほしい。子どもたちにも伝わるようなアピールを是非やってもらいたい。</p>	<p>三次まるごと博物館事業に期待していただき、ありがたく思う。私どもも、より多くのお客様に来ていただき、三次町のみならず、三次市全体に多くのお客様に周遊していただき、観光などを楽しんでもらえるよう取り組んでいきたい。子どもさんをはじめとしたアピールがもっと必要ではないかということについては、例えば市の広報誌の中に「もののけだより」として進捗状況や収蔵品の紹介、先日まで開催していたスペイン展の展示・お知らせをしているところである。また、「妖怪ドリル」という子ども向けに工夫をしたパンフレットを作って市内の学校等に配布している。しかしながら、まだまだ市民の方の盛り上がり方が足りないというご指摘を頂いているので、これからもしっかりと取り組んでいきたいと考えている。テレビ等を使ったPRについても、検討中のところはあるが、影響力の大きい首都圏のテレビ局への働きかけも検討している。</p> <p>・笑福亭鶴瓶さんが来られたのは、「鶴瓶の家族に乾杯」というNHKの番組の撮影で、番組制作の方針として、こちらから宣伝や準備ができない番組であった。なお、放送は11月19日にある。</p>	
<p>河内まちづくり連合会ができて、今年で20年目を迎えた。20年前と違い、住民自治組織が定着してきており、要望書を持って行った時の市の対応を見ると、色々と要望を受け入れてもらっていると感じる。また、地域会場で懇談会をやって、その要望の取りまとめで市や県に要望を持っていくような体制が確立している。</p>		
<p>テレビで市議会を観たが、ある地域の災害の件について議員の方が要望されていた。それに対して、ある個人に対する対策等で何とかしてあげたいと市長が言われていたが、実はもう一つ先の答弁がほしかった。もし同じような災害が起きても、絶対にそれを食い止められる施策を考えてほしかった。災害が起きた先を考えるような施策を是非とも考えてほしい。この資料には、「災害に強いまちづくり」というのは書いていないが、自分たちが安心して住める地域というのは、災害に強いまちではないかと思う。</p>	<p>・災害に強いまちづくりについては、本日の資料には入っていない。三次市総合計画は、10年計画であるが、今年度5年目を迎え、現在検証と総括をしている。その中に、3つの大きなテーマがあり、その一つが「災害に強いまちづくりをめざそう」という項目である。これまでは、4つの挑戦に5つの取組の柱を立てて進めてきた。今回の見直しの中で、これに加えて、災害の強いまちづくりをはじめとした3つの重点項目を整理し、取り組むこととしている。平成30年7月豪雨では、幸いにして昭和47年豪雨災害を基準とした堤防で、外水からはなんとか守れた。しかし、この先これ以上のものが来ないとは決して言えない。いつ来るか分からない。昨今の異常気象の中、昭和47年豪雨災害以上のものが来るかもしれない。災害に強いまちづくりに向けて、いかに命を守っていくか、どのように守っていくか、避難してそこで命を守り、また仮設的な避難も含めてどうするか。今後、三次全体の拠点と地域の拠点について、重点的に進めていかなくてはならない。ぜひ地域と話し合いの場を持たせてもらいながら、避難経路を含めて一緒に考えていきたい。このたびの平成30年7月豪雨では、大雨特別警報が出た。初めて全市一円に避難指示を出させてもらった。今までの局地的な対応は、何回も何年も経験しており、そのノウハウやマニュアルはできている。全市一斉に避難指示を発令した後の、避難所や避難経路の問題、情報伝達の問題などについては、しっかりと話し合いを持ちながら、今後取組を進めていく。</p> <p>・市長が申した通り、今回の総合計画の見直しの重点項目の一つとして、「災害に強いまちづくり」を位置づけて取組を進めている。この総合計画の見直しについては、先般、策定審議会のほうでも議論いただき、これから市民の皆様のご意見を頂戴するため、パブリックコメントとして、10月10日頃にコミュニティセンターに素案を置かせていただく予定にしている。そちらをご覧いただき、ご意見を頂戴できればと思っているので、よろしくお願ひしたい。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月5日(金)

会場:河内コミュニティセンター

参加者数:48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>広島市が取り組んでいる「高齢者いきいき活動ポイント」という制度はご存じか。広島市は、この制度をはじめて1年になる。70歳以上の高齢者が、いわゆるボランティアでまちづくりセンターへ行って草取りをしたり、グランドゴルフへ参加するなどすると、1点や2点などの点数がもらえる。1点が100円で、1万円が限度である。私の友人が広島市にいますが、非常に楽しいと話しており、100点集めたら1万円もらえるから、みんなで一緒に行こうと誘ったりして、いきいきとした生活ができると聞いている。三次市でも、そういった取組をしていただけないか。これを通じて、高齢者が元気で活動する場ができるのではないかと思う。</p>	<p>ボランティアポイント制度であるが、各地で行われていることは承知している。三次市の計画の中でも、導入することについて検討するよう考えてはいるが、具合的にはまだ未定である。このポイント制度は、確かに有効なものだと思っている。こういった方法で実現できるか検討を進めたい。</p>	
<p>今年の7月豪雨の際、宮の峡の川と山に挟まれた約1キロの道が、約1日通行止めになった。災害の際に、三次町へ逃げるといことがあるかどうかは分からないが、例えば怪我人が出たり、急病人が出たりした時にあの道が通れないと、国道54号を布野方面へ行って、山家町を回る方法があるが、災害の時には通れなくなる可能性が高い道だと思う。三原のほうに川に浸かって通行止めになっていると思うので、それが出来なかったら畠敷の方から山を越える方法もあるが、それもおそらく通行止めになっていたと思う。何かあった時に助けに来てもらえるとか、向こうへ逃げれるといった安心があれば、住みよいまちになるのではないかと思う。その一番大事な道が通れなかったため、非常にショックであった。先ほど、市長も7月豪雨よりも、大きいのが来ないとは思わないと言われた。例えば橋を架けて下さいとなれば、かなり大きな物になるが、どうにかして災害に強い道にしていただけないか。</p>	<p>・議会の一般質問でも同じような質問をいただいた。その際に、「一つの道というよりも、複数の道ということを考えており、宮の峡から三次山家線へ抜けて布野へ出てというところの、三次山家線の道路改良をしている。」と答弁をさせていただいた。一本の必ず強い道にしても、嵩上げて、仮に土砂崩れがあったら通行止めになる。一本だけを強く強くしても限界がある中で、遠くはなるが、複数の道を用意して整備しておくことが大切であると考え。なかなか工事のほうが進んでいないという批判もあるが、三次山家線も進めていることをご理解いただきたい。</p> <p>・災害に強いまちづくりということは、どのような形でまちづくりを進めていくのかということの中で、重要な指摘をいただいたと思っている。災害があった時にどのような方法があるかについては、当然ながら真剣に考えていかなければならない。重要なメッセージとして受け止めさせていただきたい。</p>	
<p>7月豪雨の水害の際は、河内コミュニティセンターや河内小学校へ避難した。電波の状態が悪く、インターネットが繋がらなかったため、大変困った。光ファイバーも全市に引いているとのことであるが、少なくとも公民館や避難場所には、FreeWi-fiを最低限付けていただきたい。</p>	<p>7月豪雨は大規模災害ということで、市が開設した避難所が37か所、自主防災の皆さんで開いていただいた所が60か所以上、計100箇所以上の避難所を開いた。今回の反省として、避難所に避難された方に、いかに情報を伝えるかという課題がある。市としては、音声告知放送や登録制のメール、テレビによるデータ放送等、色々な形で発信しているが、今おっしゃられたような受信環境を整えてないために、発信してもなかなか受け取れないという実態がある。市としても今回の大きな課題だと思っており、避難所の在り方を抜本的に見直すべきであると考えている。その中で当然、情報発信の仕方、受け方についても、FreeWi-fiやSNSの活用等を含めて見直しを考えている。地域の皆さんのご意見を聞いて、どのような形が一番良いか一緒になって考えていきたい。その時には、各自主防災組織の方にお話しやご意見を伺うなどして対応していきたい。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月5日(金)

会場:河内コミュニティセンター

参加者数:48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次市のスポーツ栄誉賞はたくさん色んな方がもらっているが、文化系の栄誉賞が一人もない。時々、スポーツや文化の表彰があり、スポーツのほうは全国大会に入賞したなど、分かりやすいが、文化のほうはそういった基準があっても、なかなか入賞しにくい。ここ2、3年、三次市でも全国的に通用するような野鳥の本を書いた方もおられ、そういう所を誰かが見つけていかないと、文化系ではなかなか表彰されることがない。見落とされているのではないかと感じる。</p>	<p>決してスポーツの表彰だけを選考している思いはない。文化も色々な面で提案をしていただきたい。先日、辻村寿三郎人形館で全国の人形公募展を開催した。100人を超える方々から出展をしていただき、北海道から鹿児島まで多くの皆さんにお越しいただいた。辻村寿三郎人形館で展示しているので、ぜひ観ていただきたい。私は、辻村寿三郎先生の影響力はすごく強いものを感じている。現在、三次町で人形を展示しながら営業もしていきたいという話は何箇所か出てきている。また、三次へ寄付していこうかというふうなお話もいただいている。これらが実現したら、三次町が人形のまちと言っても過言ではないまちづくりができるのではないかと考えている。当初からの思いであるが、三次市文化会館の跡地だけで完結するのではなく、三次町の1,400メートルのうだつのある本通りの賑わい再生をさせ、尚且つ、三次全体の活性化へ繋げていこうとする壮大なシナリオを持っているので、一步一步実現していきたい。</p>	
<p>三次もののけミュージアムは、今のやり方でいくと、東京のもののけの文化になってしまうと思う。このままいくと、三次の絵図を置いただけでおしまいになる。三次藩があって、三次藩が廃絶した後、武士たちが非常に悪いことをたくさんしたということで、武士は武士らしくたれということ、平太郎が夢を見たということなので、三次の歴史としっかり照らし合わせて、明らかにしてほしい。そうでないと、東京であっても三次であっても同じである。三次に作る以上は、三次になぜもののけが生まれたのかを明らかにすることをお願いしたい。</p>	<p>日本妖怪博物館については、現在、具体的な展示の中身について検討している。基本的には、博物館の中に4つの部屋を設ける予定である。一つは、日本の妖怪という形で、湯本豪一さんから頂いたコレクションを中心とした展示。もう一つは、稲生物怪録の専用の部屋を設けてそこに絵巻など、昔から現代に伝わる様々な物を展示しようと考えている。また、ある程度整理ができた段階で、具体的な中身についてはお知らせをしたい。日本妖怪博物館は、三次発祥の稲生物怪録が、三次から日本へ広がっていったことを伝えるとともに、後世へ残していくことを目的の一つとしている。なぜ三次にあるのかということとしっかりと皆さんにお伝えできるような展示にしたいと思っている。</p>	
<p>我々の地区も鳥獣被害に苦労している。営農組合としても、檻を製作して設置していただき、猟の資格も補助をして取得していただくなどしている。毎年何人かに協力してもらい山家町だけで20~30頭のイノシシを捕獲している。しかし、捕獲をした後に大変な労力がかかる。お伺いしたところ、駆除班には1頭あたり、7千いくらかの補助がでると聞いた。それ以外の人には補助がない。地域として捕獲をしていなかったら、どうなるのかと思う。労力を惜しまずに捕獲をしていただいているので、補助班以外にも同様に補助をしていただけないか。</p>	<p>有害鳥獣の駆除については、色々な方法を取りながら駆除をしているところである。イノシシについては、毎年市内で1千頭以上、シカ等についても400~500頭を捕獲している。イノシシ等については、防除ということで集落等含めて個人に対して、ご承知いただいているように補助をしている。もう一つは駆除ということで、有害鳥獣の駆除班を市内で編成をしている。駆除班員の方は猟友会にも入っておられると思うが、ボランティアという形で、市の駆除班としての活動をしていただいている。有害鳥獣を捕獲する場合には、銃・檻・罠い農、いずれにしても危険が伴うため、市としては駆除班で駆除をすることを進めている。3つ目の方法として、現在市が進めているのは、集落で取り組んでいただくモデル集落の取組である。平成25年度から市内19住民自治組織に各1箇所、あるいは複数箇所の集落でモデルを組んでいただき、その集落で話し合いをしながら、進めていただく取組をしている。一番最初にスタートしたのは三和町、その次が田幸の糸井町である。具体的に取り組んでいただいた場合には、かなり効果がでている。毎年、地域づくり懇談会等で色々駆除についてお話しが出ていたが、三原市内でも具体的に集落のモデル事業を地域に広めていき、大きな成果が出ているという話もあるので、是非河内地域においても、モデル地域と言う形で取り組んでいただき、その中で駆除等も含めて効果的な方法を進めていただきたいと思う。総合的な施策ということで進めていきたい。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月5日(金)

会場:河内コミュニティセンター

参加者数:48人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>現在、奥田元宋・小由女美術館は入場者も若干減ってきていると聞いている。サポーター制度というのを設けているとのことで、私もいくらか出させていたideているが、他の人はほとんどそのような制度があることを知っておられない。個人にしても、企業にしてもそうである。今回、日本妖怪博物館が開館するにあたって、私は賛成ではなかったが、出来かけている以上は何とかしなくてはならない。日本妖怪博物館にもこのようなサポーター制度形式のものを作ると、色々な形で協力していただけるのではないかと。市に在住している個人にしても、企業にしても、そういう制度で「どうにかしよう。」という機運を高める必要があると思う。</p>	<p>・奥田元宋・小由女美術館のサポーター制度を紹介いただき、感謝申し上げます。サポーター制度については、毎年、年度が替わる前に、チラシを持って事業所等を回ってお願いしたり、あるいは継続をお願いしたりしている。おっしゃっていただいたのは、普段からもっと広めていくことで、サポーターも広がりを持っていくということだと思ふ。公益財団法人も一生懸命やっいていこうとしているので、どういう方法が考えられるか一緒に考えていきたい。</p> <p>・日本妖怪博物館については、博物館自体を地域の方と一緒に盛上げていく必要があると考えている。また、運用にあたっては、地域の方のご協力等もいただけたらと思っている。現在、ご紹介いただいた、奥田元宋・小由女美術館のサポートメンバーも参考にしながら、また風土記の丘では友の会等も設置されているので、そうした他の博物館や美術館の制度等を研究しながらどういった形ができるか検討している。また、奥田元宋・小由女美術館では、ボランティアスタッフによる運用もされている。そうした部分を含めて地域の方と一緒に盛上げていけるような形が取ればと考えている。現在、ここでご紹介できる段階になっていないが、今後ご協力をお願いしたい。</p> <p>・奥田元宋・小由女美術館のサポーター制度については、三次市は他の自治体と比較して、大変協力していただいていると思っている。人数的には大変厳しくなっているのは事実であるが、事務局も美術館の館長・理事長とも協議しながら確保していく努力は必要であると思ふ。三次市民ホールきりりは、とてもサポーター制度が充実している。8月の時点でNPO法人へ移行され、自主運営とサポート制度を展開しており、年間100日を超えるくらい出向いてもらって色々な行事への参画など、サポートをしていただいている。また、みよし森のポッケにも、市民の皆さんの協力をいただいてサポーター制度を導入しており、土日を中心に協力をしていただいている。日本妖怪博物館についても、サポーター制度も導入して、市民の皆さんにも協力してもらい、一体的に盛上げて支えてもらいたいと思っている。担当部長のみならず、プロジェクトの中で検討をさせていただいている。色々な施設の舞台裏を支えてもらっている皆さんは、三次にとっては本当にありがたいと思っている。</p>	
<p>今年の地域づくり懇談会で出た要望事項をまとめて、10月の半ば過ぎに市長へ要望書を持っていく予定にしている。その中には県への要望もある。特に県への要望については、たまたま助かったという大きな事案であるので、三次市の強い後押しがないと恐らく県も受け入れてくれないような大きな事案である。是非とも大きな後押しをいただきたい。</p>	<p>広島県においても、国においても、地域要望については是非三次市にも内容について申し出をしていただきたい。公正公平の中で進めていく上で必要な要素だと思ふ。県・国土交通省などの管轄であっても、私どものほうへ要望してもらえれば、当然ながら毎年調整会議も行っており、必要があればそのたびごとに、我々も三次市として更に要望書をつけて、地域の皆さんとともに強く実現をお願いしていきたい。</p>	